



ドイツの春のお祭りと「マイバウム」

みなさんはリトルワールドのヨーロッパエリアに立っている「マイバウム」をじっくり見たことがありますか？

ペイントされた柱にさまざまな職業の絵が描かれた看板が装飾されたもので、南ドイツでは町の広場などに立てられています。マイバウムとはドイツ語で「マイ (Mai=5月)」「baum (Baum=木)」つまり「5月の木」という意味です。

このマイバウム、毎年、もしくは数年に1回、5月1日に建て替える風習があり、その祭りのことを「5月の踊り」と呼びます。

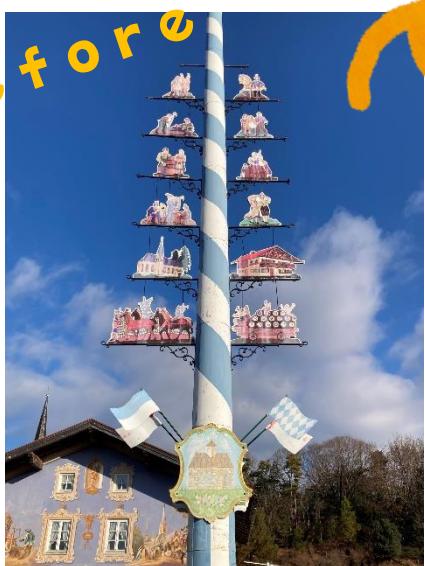
マイバウムは建て替えられた後、毎晩見張りが立ちます。実は、「マイバウムを隣町の若者たちが盗む」といういたずらの風習があり、自分の町のマイバウムを隣町の若者たちに触れられると、マイバウムを盗まれたことになってしまうのです。返してもらうためには「ビールを何本」といった隣町の要求に応える必要があることも…？

ちなみに、リトルワールドに立てられているマイバウムの柱は青と白のしましま模様ですが、これはバイエルン州のイメージカラーです。

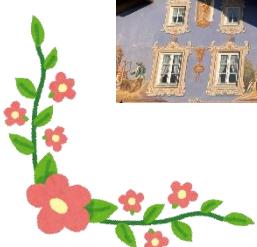
装飾にはどんな絵が描かれているのか、ぜひ見上げてみてくださいね。

マイバウムが
塗りなおされて
きれいになりました！

Before



After



文化に根付く動物いろいろ

みなさんは動物、お好きですか？

筆者学芸員 H は保護猫 2 匹を飼う動物好きで、ついつい動物モチーフのものを集めてしまします。様々な地域の文化を動物に注目して見ていくと、身近な動物を象徴化してかわいらしく描いた姿をそばにおいていることも多く、なんだか不思議な共感を覚えます。



例えばトリンギットのトーテムポール。一族の祖先とする動物が頂上に彫刻されます。リトルワールドにあるトーテムポールの頂上にいるワタリガラスは、世界の創造者としてとても尊敬されています。他に働きものの象徴ビーバー、永遠の命を象徴するカエルなどが彫刻されていて、祖先の動物にはクマやオオカミ、クジラなどもいます。苗字のかわりに好きな動物が名乗れたらすてきですよね。



ゾウの頭をもつ神様ガネーシャ。障害を取り除き成功と幸運をもたらす、タイではとってもメジャーな神様です。ガネーシャはシヴァ神と女神パールヴァティの息子ですが、悲しいすれ違いでシヴァにはねられた首をシヴァの部下が見つけられず、ゾウの頭を持って帰ってきて息子体に付けたことでこのような姿になりました。ゾウが身近な存在であることが伺えます。



ペルーにある巨大な地上絵、ナスカの地上絵も動物が描かれているものが多くあります。昨年ペルー 大農園領主の家の壁画を修復に来てくれたハイメさんのお孫さんは、ワークショップの際にハチドリの地上絵の手づくりスタンプを用意してくれました。ハチドリは渡り鳥で、ナスカでは雨季に見られることから豊穣の象徴とされていたようです。



そして筆者がネコ墓碑ゆえに紹介したいのがエジプトのネコのミイラ。古代エジプトではネコはとても大切に扱われていて、人間と同じようにミイラにして弔われていたそうです。エジプト神話に登場するバステトもネコの姿をした女神です。私もネコと同じお墓に入りたい…。

ネイティブアートフラッグ in リトルワールド

先住民アートのデザインを、ミニサイズの旗（フラッグ）やトートバッグに描きましょう！さらに、参加者の皆さんのおメッセージを大きな旗に描いて、本館プラザに飾ることもできます！

開催日：5/25(日)、6/29(日)、7/19(土)
8/23(土)、9/20(土)

講師：ソダテル LABO 宮崎喜一氏、名川敬子氏

時間：10:30～15:30（※随時参加可能・予約不要）

場所：本館プラザ付近

参加費：500 円/一人

